

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2008 第61号

あなたとともに
100万人の仲間とともに

本館から望む六会日大前駅



《目 次》

学部長就任にあたって	2	工学会（生物環境工学科）	7
重責を担って	2	F T会（食品科学工学科）	8
平成20年度総会・懇親会	3	拓友会（国際地域開発学科）	8
平成19年度校友会決算および		短期大学部湘南校友会	
平成20年度校友会会計予算	3	（短期大学部生物資源学科）	9
農学校友会（植物資源科学科）	4	応用生物科学科校友会	
紫友会（農芸化学科）	4	（応用生物科学科）	9
角笛会（獣医学科）	5	支部だより	10.11
満喜葉会（動物資源科学科）	5	校友だより	11.12
いもづる会（食品経済学科）	6	校友会事務局からのお願い	12
あすなろ会（森林資源科学科）	6	平成21年度通常総会通知	12
桜水会（海洋生物資源科学科）	7	校友会役員・事務局名簿	12

本館から望むグラウンド

「酒井学部長が日本大学総長にご就任されました。」

日本大学生物資源科学部 酒井健夫学部長が9月1日付けで日本大学総長に就任されました。本学部からの総長就任は初めてであり、喜ばしい限りでございます。学部校友会として心よりご就任をお祝い申し上げると共に、日本大学の発展に益々活躍されますことを心より祈念申し上げます。

「徳山学部次長が学部長にご就任されました。」

農芸化学科教授の徳山龍明学部次長が酒井健夫学部長の総長就任に伴う後任として、8月24日付けで、学部長に就任されました。学部長は農芸化学科昭和38年ご卒業の校友であり、今後は学部校友会の名誉会長として校友会をお導き頂く事になります。今後益々のご活躍を祈念申し上げます。



酒井 健夫 日本大学総長

学部長就任にあたって

日本大学生物資源科学部 学部長 徳山 龍 明

日本大学生物資源科学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。わたくしは8月24日付けで、学部長という重責を担うこととなりましたが、その職の重さに身の引きひきしる思いを感じております。わたくしはこれまでの3年間の学部次長としての経験を礎にして微力ではございますが、新鮮で活力ある持続可能な学際的教育研究環境の構築に向け、学部の更なる発展のために全精力を傾注いたす所存でございます。学部長就任にあたり、本学部校友の皆様方には平素から何かとご支援をいただき厚く御礼を申し上げますとともに、本紙面をお借りしてご挨拶をさせていただきます。

現在、地球規模で起きている温暖化に伴う気候や様々な環境変化への対応、地球にやさしいクリーンなバイオエネルギー生産システムの構築、食資源の安定供給システムの形成、さらには人類を健全に支えるための社会科学と自然科学融合型バイオサイエンスの創生など、そのいずれのテーマについても生物資源科学部の果たすべき役割は大きく、本学部へ注がれる社会の期待は大きいものと思われまます。このような地球規模の課題に

えるうえでも、優れた教育と高度な研究活動を展開し、人類を取り巻く課題の解決に貢献することは、本学部の責務であると思っております。そのためには、これらの諸問題に果敢に取り組み、解決する熱意ある有能な若い教育者、研究者を育成し、ひいては人間性豊かで社会に貢献できる、総合的能力をもった有為な人材を輩出することが本学部の大きな役割であると考えております。

ここ数年、大学組織を取り巻く環境はいくつかの社会的要因が相まって、戦後初めて経験する厳しい状況にあることは周知の事でありまます。また、旧国立大学におきましては、独立行政法人化後、選ばれる大学のため、様々な情報機関を介して活発にその特色を社会に情報発信しております。このような厳しい大学環境のなかで、国・公・私立大学にかかわらず大学はその真の実力が今まさに問われていると思っております。したがって、わたくしども教職員は大学における自己点検・評価の基本の概念であります教育・研究、管理運営、国際交流、社会連携等について真摯に対応し、選ばれる大学・学部に向かって邁進することが大切であると思っております。なかでも、将来

を見すえた「人材育成」という見地から、学部学生並びに大学院生の教育・研究指導体制の強化はもとより、経済的支援制度及び安全・安心の確保については、より具体的な学生支援に努めたいと考えております。

日本大学の全校友は、来年度には100万人を突破いたします。日本大学のように、他に類をみない最大規模の総合大学にとって、社会に通用する適確な判断能力をもった人材を育成するためには、「帰属意識の醸成と高揚」が必須であり、そのためには本学の建学の精神である「自主創造」を理解、浸透させる教育が求められます。学部校友の皆様にもこの点をご理解いただき、教職員と校友の皆様が一丸となって学生に啓蒙していただくことを期待しております。

末筆ながら、校友会の発展と皆様方のご健勝と一層のご活躍をお祈り申し上げ、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いし、わたくしの挨拶といたします。



重責を担って

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

平成20年7月12日に開催された日本大学生物資源科学部校友会総会に於いて初代工藤正城会長、第2代佐藤弘一会長、第3代庄川洋一会長、第4代茂澤果会長に続いて第5代会長として学部校友会々長に選出されました。

生物資源科学部校友会は12学科・9地方支部、校友84,000名、準会員7,500名を擁する日本大学有数の組織であり、この組織の会長に就任した重責に身の引き締まる思いを感じております。

本年は生物資源科学部酒井健夫学部長の日本大学総長就任、徳山龍明学部次長の学部長就任等慶事が続いておりますが、更なる生物資源科学部の発展と、準会員・校友の為に学部校友会が果たす役割については重大な決意をもって邁進する覚悟でございます。

会長就任後、新たに設置した執行役員会には会長を補佐していただく5名の副会長(企画担当・石川副会長、総務担当・赤塚副会長、

財務担当・関村副会長、広報担当・山本副会長、組織担当・酒川副会長)と村山事務局長代行による強力な体制をつくりあげ、日本大学建学の精神である「自主創造」の実践と、「学部・学生支援の充実強化と学部・校友との強固な絆の再構築」を図り、魅力ある学部校友会運営を推進して行きたいと考えております。

学部校友会草創期の記録(学部校友会創立50周年記念誌)を見ますと、『昭和18年六会に日本大学農学部が設立され、昭和23年3月農学科(耕種学専攻、農産製造学専攻、畜産学専攻)及び農業経済学科の百数名の第一回卒業生が社会へ巣立ち、同年10月卒業生の大きな期待のもとに、専門部拓殖科の校友会である「拓友会」と合併し農学部校友会の誕生をみ、本学部校友会歴史の第一歩となりました』と記載されています。学部校友会は、来年7月に創立60周年記念式典を計画しております。この栄えある歴史と伝統に支えられた学部校友会の記念式典を皆様

と共に慶びを分かち合い、迎えたいと考えております。

どうか学部校友会発展のために忌憚のないご意見を直截に賜り、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

【会長略歴】

昭和20年10月28日生。昭和39年3月北海道立網走南ヶ丘高校卒業。昭和43年3月日本大学農獣医学部拓殖学科卒業。平成15年7月日本大学生物資源科学部校友会拓友会会長就任。平成20年7月日本大学生物資源科学部校友会会長就任。平成20年9月日本大学本部校友会副会長・日本大学評議員就任。





退任のご挨拶

生物資源科学部校友会 顧問 茂澤 果

日本大学生物資源科学部校友会会長として4期12年の永きに亘り務めさせて頂きました。この間、本部校友会が「自主創造」を謳い、校友会を改革した事は既にご承知のことと思います。

生物資源科学部校友会もこの改革に賛同し、本部校友会の生物資源科学部会として、期待される、魅力ある校友会創生を心がけて参りました。これも偏に会員皆様のご協力と厚く御礼申し上げます。

遣り残した問題は多々ありますが、次期会長に申し送りしたいと思いますので、会員の皆様にはどうぞ新会長にご支援、ご協力下さいます様、切にお願い申し上げます。

最後に会員皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



平成20年度総会・懇親会開催される



昨年に引き続き、学内で平成20年度総会・懇親会が平成20年7月12日(土)に開催された。総会には82名の会員が出席、楠元副会長の開会の挨拶、茂澤会長の挨拶に続き、議長に赤塚副会長が選出され会議が開催された。各議案とも慎重に審議されたが、第1号議案平成19年度事業経過報告、同決算報告、同監査報告、及び第2号議案平成20年度事業計画(案)、会計予算(案)は原案通り賛成多数で承認された。第3号議案校友会会則改正(案)は、酒川ワーキンググループ座長から、プロジェクターを駆使して判りやすく説明があり、賛成多数

の拍手で承認された。第4号議案の役員改正については、分会から提出された幹事候補者一覧表が示され、異議無く承認された。監事選任については、遠藤克氏、長尾壯七氏、勝野武彦氏が推薦され、拍手で承認された。5月10日の会長選挙により拓友会の内田俊太郎会長を校友会会長に選出したが、この報告が承認され、内田俊太郎氏が第5代校友会会長として拍手の中で承認された。第5号議案では会長賞の提案があり、永年に亘り農獣医学部・生物資源科学部教授として多くの後進の育成・指導に尽力され角笛会に於いては副会長として校友会発展に貢献をされた長尾壯七様(角笛会、獣医学科昭和27年卒)と、地域産業の振興に寄与した事で平成20年春の叙勲で旭日小綬章を授章された守屋喜代木様(いもづる会、農業経済学科昭和28年卒)のお二方が承認され、総会は閉会となり、続いて本館地下の懇親会々場で表彰式が行われました。懇親会は160名



を超える盛大な会となり、田中英壽本部校友会会長、徳山龍明学部次長のご挨拶を頂き、来賓のご紹介、退任分会長への感謝状贈呈を行い、乾杯の後、和やかで賑やかな懇親会を深める事が出来ました。特に本年は高知県支部が創立20周年を迎える中、8名の多数で参加頂き、一層懇親会が盛り上がりしました。今後とも各分会の学科同期会なども総会の席に併せて開催される事を期待しております。来年は別紙告知の通り、平成21年7月11日(土)に総会・懇親会が開催されます。校友会創立60周年記念式典も併催されますので、多数ご参加下さい。

平成19年度校友会会計決算および平成20年度校友会会計予算について

平成20年度の校友会予算の特徴は次の様になりました。

- 1) 準会員対応費として校友会奨学金などを大幅に増額した。
- 2) 分会・他学部・支部との連携強化、事務局強化のための費用を増強した。
- 3) 事業費は緊縮財政の元、ホームページ充実や校友会発展のための経費は強化した。
- 4) 60周年記念行事開催の準備として基金積立金を増加した。

尚、会計書(決算・予算)は学部校友会のホームページ(日本大学生物資源科学部校友会での検索か、日本大学生物資源科学部のホームページの中の「卒業生の方へ」のタグから入れます)にも掲載されています。是非、ホームページもご覧下さい。

平成19年度日本大学生物資源科学部校友会会計決算書
自:平成19年4月1日 至:平成20年3月31日

会長 茂澤 果

(収入の部)		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	19年度予算	19年度決算	19年度決算		
1. 前年度繰越金	5,249,371	5,249,371			
2. 会 費	42,517,667	43,482,000	964,333		
(1) 準会員会費	42,232,000	43,278,000	1,026,000		@6,000×7,213名本部より還付
(2) 旧準会員会費	49,867	0	△49,867		
(3) 正会員還付金	216,000	204,000	△12,000		@2,400×85名本部より還付
3. 会費会費・祝金	1,000,000	1,010,000	10,000		年会、懇親会、幹事会費・祝金
4. 預 金 利 子	5,000	80,833	75,833		定期預金満期2年分処理
5. 雑 収 入	10,729	10,000	△729		
収 入 合 計	48,782,967	49,832,404	1,049,437		

(支出の部)		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	19年度予算	19年度決算	19年度決算		
1. 分会交付金	21,126,000	20,763,000	△363,000	13分会	
(1) 準 会 員	21,126,000	20,763,000	△363,000	@3,000×6,921名(大学院生除く)	
(2) 旧 準 会 員	0	0	0		
2. 経 常 費	10,870,000	11,602,996	732,996		
(1) 人 件 費	3,700,000	3,514,000	△186,000		事務局給与等
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0		日本大学生校友会本部
(3) 事務局運営費	800,000	800,286	286		事務消耗品費他
(4) 通 信 費	2,600,000	2,558,539	△41,461		会費会費補助、会議案内切手代他
(5) 会 合 費	1,000,000	1,630,773	630,773		幹事会、常任幹事会等
(6) 交 際 費	800,000	572,823	△227,177		分会・支部・他学部等校会他
(7) 交 通 費	1,500,000	1,994,520	494,520		支部同交通費・事務局交通費
(8) 手 数 料	0	62,055	62,055		銀行振込み手数料
3. 事 業 費	14,050,000	12,889,224	△1,160,776		
(1) 総 会 費	2,000,000	1,412,789	△587,211		学内で総会・懇親会開催
(2) 広 報 費	1,500,000	1,677,375	177,375		会報60号・HP作成費
(3) 広報・経理・総務費	150,000	31,206	△118,794		委員会・会報編集会費等
(4) 経理・経理費	150,000	68,417	△81,583		委員会・経理費等
(5) 経理・経理費	150,000	17,750	△132,250		委員会・経理費等
(6) 記念事業費	200,000	0	△200,000		分会・支部・他学部等校会他
(7) 経理管理費	100,000	0	△100,000		ソフト代・入力代他
(8) 準会員対応費	5,000,000	4,993,920	△6,080		学内・学外・学際・学際・学際
(9) 会長賞記念品	500,000	116,000	△384,000		校友会会長賞、表彰記念品他
(10) 経理・経理費	300,000	571,787	271,787		本部特別委員会等(30万円)
(11) 基金積立金	4,000,000	4,000,000	0		60周年記念事業費他・三井住友定期
4. 予 備 費	2,736,967	0	△2,736,967		
当 期 支 出 合 計	48,782,967	45,255,240	△3,527,727		
5. 次年度繰越金	0	4,577,164	4,577,164		
支 出 合 計	48,782,967	49,832,404	1,049,437		

【積立金】		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	19年度予算	19年度決算	19年度決算		
名簿積立金	4,979,351	4,979,351	0		三菱東京UFJ銀行
基金積立金	21,054,973	21,000,000	△54,973		三井住友銀行・60周年基金他
旧準会員積立金	0	0	0		三井住友銀行
積 立 金 合 計	26,034,324	25,979,351	△54,973		

平成20年度日本大学生物資源科学部校友会会計予算書(案)
自:平成20年4月1日 至:平成21年3月31日

会長 茂澤 果

(収入の部)		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	20年度予算	19年度決算	19年度決算		
1. 前年度繰越金	4,577,164	5,249,371	△672,207		
2. 会 費	45,282,000	43,482,000	1,800,000		
(1) 準会員会費	45,078,000	43,278,000	1,800,000		@6,000×7,513名本部より還付
(2) 旧準会員会費	0	0	0		
(3) 正会員還付金	204,000	204,000	0		@2,400×85名本部より還付
3. 会費会費・祝金	1,000,000	1,010,000	△10,000		年会、懇親会、祝金
4. 預 金 利 子	40,000	80,833	△40,833		
5. 雑 収 入	4,000,836	10,000	3,990,836		準会員対応金、基金取戻し前入
収 入 合 計	54,900,000	49,832,404	5,067,596		

(支出の部)		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	20年度予算	19年度決算	19年度決算		
1. 分会交付金	22,539,000	20,763,000	1,776,000	12分会交付金	
(1) 準 会 員	22,539,000	20,763,000	1,776,000	@3,000×7,513名(大学院生含む)	
(2) 旧 準 会 員	0	0	0		
2. 経 常 費	10,800,000	11,602,996	△802,996		
(1) 人 件 費	3,500,000	3,514,000	△14,000		事務局給与等
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0		日本大学生校友会本部役員会費
(3) 事務局運営費	800,000	800,286	△286		事務消耗品費他
(4) 通 信 費	2,800,000	2,558,539	241,461		会費会費補助、会議案内切手代他
(5) 会 合 費	1,000,000	1,630,773	△630,773		幹事会等
(6) 交 際 費	600,000	572,823	27,177		分会・支部・他学部等校会他
(7) 交 通 費	1,500,000	1,994,520	△494,520		支部同交通費・事務局交通費
(8) 手 数 料	62,000	62,055	△55		銀行振込み手数料
3. 事 業 費	18,075,000	12,889,224	5,185,776		
(1) 総 会 費	1,500,000	1,412,789	87,211		学内・学外・学際・学際・学際
(2) 広 報 費	1,600,000	1,677,375	△77,375		会報60号・HP作成費
(3) 広報・経理・総務費	150,000	31,206	118,794		委員会・会報編集会費等
(4) 経理・経理費	150,000	68,417	81,583		委員会・経理費等
(5) 経理・経理費	150,000	17,750	132,250		委員会・経理費等
(6) 記念事業費	500,000	0	500,000		分会・支部・他学部等校会他
(7) 経理管理費	0	0	0		ソフト代・入力代他
(8) 準会員対応費	10,525,000	4,993,920	5,531,080		学内・学外・学際・学際・学際
(9) 会長賞記念品	400,000	116,000	284,000		校友会会長賞、表彰記念品他
(10) 経理・経理費	600,000	571,787	28,213		本部特別委員会等(30万円)
(11) 基金積立金	0	4,000,000	△4,000,000		60周年記念事業基金より取り崩し
(12) 経理・経理費	2,500,000	0	2,500,000		
4. 予 備 費	4,486,000	0	4,486,000		
当 期 支 出 合 計	54,900,000	45,255,240	9,644,760		
5. 次年度繰越金	0	4,577,164	△4,577,164		
支 出 合 計	54,900,000	49,832,404	5,067,596		

【積立金】		(単位:円)		差異増減	摘 要
科 目	20年度予算	19年度決算	19年度決算		
名簿積立金	4,979,351	4,979,351	0		
基金積立金	17,000,000	21,000,000	△4,000,000		普通預金へ振替
準会員積立金	0	0	0		
積 立 金 合 計	21,979,351	25,979,351	△4,000,000		

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujiki@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度農学校友会 総会・懇親会開催



石川 稔矩 新会長による挨拶

平成20年度農学校友会総会・懇親会が平成20年5月10日(土)13時より湘南キャンパス第一会議室で開催されました。平成19年度事業経過・同決算、平成20年度事業計画・同予算は原案通り承認されました。名誉会員に、蒲原 務氏(1期)・島津 正氏(3期)・高橋文次郎氏(3期)・西島羽 曙氏(4期)・浅野明氏(5期)・石井賢治氏(7期)・宮浦敏磨氏(7期)・古川仁朗氏(10期)の8氏が推挙、承認されました。新役員には、会長:石川稔矩氏(19期)、副会長:赤木洋行氏(26期 再任)・飯島正一氏

(25期)、会計:小林義雄氏(21期)、監査役:村上 新太郎氏(29期 再任)・市川 靖氏(37期)が就任されました。楠元 守前会長(13期)と浅川廣治元副会長(18期)が校友会運営功労者として表彰されました。

同日15時よりNUSCホールにて懇親会が開催されました。新会長、学部校友会会長賞受賞者(山下氏は所用にて欠席)の挨拶のあと、学生サークルのフォークローレの演奏の中、懇親のひと時を過ごしました。学部校友会会長賞受賞者として、山下安夫氏(10期:地域産業振興功労で黄綬褒章を受賞)・坂本正次氏(25期:アジサイの育種で農林水産大臣賞を受賞)・飯田智司氏(37期:トマトの大規模の功績で内閣総理大臣賞を受賞)の3氏の紹介がありました。

学科行事への援助

新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。また、卒業生全員に記念品を贈呈しました。5月末に実施された学部行事スポーツフェスタに合わせ、新しく決まった校友会ロゴが印刷されたTシャツを贈りました。

植物資源科学科の近況

[卒業・新入学生]

昨年度は146名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生191名(男子:122名、女子69名)を迎え、本年度は総数636の学生が在籍しています。

[海外研修]

国立中興大学(台湾)農業・自然資源学院の学生20名が植物資源科学研修のため8月18日

～9月7日の3週間にわたり滞在しました。日本の農業、わが国の花き園芸研究の現状に関する講義、農場実習、農業施設見学、湘南地域農家視察、討論会などが行われ、全員に修了証が授与されました。この間、台湾の学生と本科学学生間の交流も盛んに行われました。

[学科教員の動き]

造園学研究室教授 吉田博宣先生が本年3月に定年退職されました。吉田先生は2001年から造園学の講義をはじめ、多くの学生の指導にあたられました。4月から大澤啓



大澤啓志 先生

志先生が造園・緑地学研究室専任講師として着任されました。大澤先生は本学研究科後期課程修了後、日本文理大学、慶応義塾大学で環境生態学や緑地計画を中心とした教育・研究に従事していました。果樹・蔬菜園芸学研究室の立石亮先生が准教授に昇格されました。8月に徳山龍明教授が新学部長に就任されたことにともなって、井上弘明教授が学生担当に、野村和成教授が学科主任に任命されました。

[事務局より]

農学校友会ホームページを開設しました。<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/>がご覧いただけますが、学部校友会のページからリンクを辿って入ることもできます。会員各位の近況や告知したいことなどをお知らせください。

(文責:野村和成)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 酵素化学研究室
0466-84-3944 事務局長 加藤 順

平成19年度紫友会事業報告

平成20年7月19日湘南校舎において平成20年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成19年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。また平成20年度の事業計画、予算案が決定されました。

平成20年度紫友会総会・懇親会

平成20年11月22日(土)ローズホテル横浜(横浜市、中区)にて16時から平成20年度総会・懇親会を開催することになりましたのでご案内申し上げます。総会では平成19年度事業報告、決算報告、監査報告および平成20年度事業計画、予算案、役員選出、会則変更等ご審議いただく予定になります。多くの校友の皆様のご出席をお待ちしております。

平成20年度第15回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第15回生9名が、同奨学生選考委員会(奥忠武委員長)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。

- 2年次 高橋佳世、堤千香子、原愛弓
- 3年次 池上雄星、菊澤美沙子、菊池まどか
- 4年次 長沼幸宏、山本慎一郎、伊藤利香
(敬称略)

石井謙二名誉教授瑞宝中綬章受章

石井謙二名誉教授は平成19年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。先生の受章をお祝い申し上げるとともに、本学科の教育と研究にご尽力いただいたことに会員一同感謝申し上げます。

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生181名(男子:91名、女子90名)を迎え、総計626名(男子:328名、女子:298名)の学生が在籍しております。学科主任に奥忠武教授、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に櫻井英敏教授が就任されております。

徳山龍明教授は生物資源科学部学部長に就任されました。また、長谷川功教授は短期大学部次長に就任されました。

長谷川功教授は「植物におけるカドミウムの吸収・集積および耐性能に関する研究」の研究業績に対して社団法人日本土壌肥科学会より第53回日本土壌肥科学会賞を授与されました。先生の益々のご活躍が期待されます。



赤尾 真助手

[人事]

本年4月1日に赤尾真助手(食品化学研究室)が着任されました。先生は本学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程を修了され

ました後、米国チューレーン大学医学部、ニューヨーク大学医学部にてご活躍でありました。先生のご研究の益々のご発展が期待されます。また、実験準備室の小野田ゆか



清塚 まみ 実習助手

り副手は本年3月で退職され、後任として本年3月に本学農芸化学科を卒業された清塚まみ実習助手が採用され活躍されております。

紫友会事務局より



校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成19年10月に開催され植物栄養生理学研究室が優勝しました。表彰式の後、学生教職員、紫友会会長、副会長の方々と懇親会が開催されました。

また、平成20年3月に開催されました平成20年農芸化学科卒業生謝恩会に紫友会会長、副会長の方々が招待され、卒業生の方々と広く交流を深めました。

(荻原 淳)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局 渋谷 久
E-mail: shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学獣医学科 創立100周年記念式典開催



平成19年10月13日(土)、日本大学生物資源科学部本館大講堂において獣医学科創立100周年記念式典が盛大に開催されました。全国から275名が参列し、NHKのチーフアナウンサー畠山智之氏の司会進行のもと、中川秀樹・角笛会会長の挨拶に始まり、「日本大学・獣医学科の100年の歩み」の画像映写と畠山氏のナレーションによる解説、続いて、酒井健夫学部長、蔵内勇夫・日本獣医師会副会長、茂澤泉・生物資源科学部校友会会長らご来賓の祝辞、そして田中延吉・元角笛会会長から挨拶がありました。また発展に大いに尽力された田中延吉氏、日比野次郎氏、宮田萬司氏に対する特別功労者表彰と三代角笛会会員表彰が行われ、中川会長から賞状と記念品が授与されました。祝賀会は別棟のNUBSホール3階で開催され酒井学部長、水谷渉・神奈

川県獣医師会会長、越久田健・横浜市獣医師会副会長からご祝辞を頂戴しました。

平成20年度角笛会総会開催

平成20年6月7日(土)、日本大学生物資源科学部10号館第4講義室において平成20年度の角笛会総会が開催されました。本年度も日本大学獣医学会と合同開催で行われ、校友の親睦を中心に学術の発展が図られました。今年は角笛会役員改選にあたり、総会に先立ち新常任幹事が選出されました。そして互選の結果、新会長は引き続き中川秀樹氏、副会長に岩田颯三氏、佐藤常男教授、津曲茂久教授に決定、総会で承認されました。

獣医学科の近況

日本大学生物資源科学部附属動物病院(ANMEC)で、東芝社製の高電圧放射線治療装置(LINAC)が稼動しました。従来行われた小動物の腫瘍に対してより安全で、的確な治療が行えるようになりました。

獣医師国家試験

第59回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科から146名が受験し、131名が合格しました。合格率89.7%(全国平均87.3%)。私立5大学中2位でした。

表彰、受賞

平成19年度の卒業生のうち優等賞が井上真菜美さん、学部長賞が中野千穂さん、大野真美子さん、日本獣医師会会長賞が石山智彦、角笛会賞が池田雄太さん、廣瀬僚さんにそれぞれ授与されました。

博士(獣医学)の学位取得者

課程博士:伊藤かな子氏、久梁賢治氏、世良田研氏、瀧澤文雄氏、前田浩史氏

退 職

徳力幹彦教授(総合臨床獣医学)、長谷川篤彦教授(獣医臨床病理学)、木村順平准教授(獣医解剖学)、山本美紀副手(学科事務室)が退職されました。

人 事・昇 格

鎌田寛准教授(獣医微生物学)が教授として獣医臨床病理学へ昇進・移動されました。巨敏広准教授(総合臨床獣医学)が教授に昇進されました。鯉江洋専任講師(獣医内科学)、北川勝人専任講師(総合臨床獣医学)が准教授に昇進されました。枝村一弥助手(獣医外科学)が専任講師に昇進されました。

新 任

中山智宏准教授(獣医放射線)、松本淳専任講師(獣医動物学)、伊藤大介助手(総合臨床獣医学)、佐野忠士助手(総合臨床獣医学)、中野めぐみ実習助手(学科事務)が着任されました。

(加納 聖)



中山智博 准教授



松本 淳 専任講師



伊藤 大介 助手



佐野 忠士 助手



中野めぐみ実習助手

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度満喜葉会活動報告

【会長選考委員会、役員会の開催】

定例の理事会・幹事会合同の役員会は、平成20年5月31日(土)午後2時より学部資料館2F第1会議室において開催されました。役員会は、山本副会長を議長として議事に移り、平成19年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成20年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。また、平成20年1月に開催された前会長退任に伴う新会長選考委員会により決定された会長・副会長候補者名が挙げられ、総会への推挙が決定致しました。

【新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後4時より食堂棟において、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

【満喜葉会総会・懇親会の開催】

平成20年度満喜葉会総会が、平成20年6月28日(土)午後2時より学部本館2階33講義室において開催されました。事務局より過年度

事業および決算報告、次年度事業計画および予算案が出され、審議の後承認されました。また、先の役員会で推挙された新役員候補者が原案通り承認されました。新役員は、以下の通りです。

会 長	山本 捷	(44年卒)
副会長	神山 衛二	(43年卒)
"	新保 千秋	(46年卒)
"	久保 允人	(56年卒)
"	小杉 幸彦	(42年卒・留任)
"	加藤 幸光	(51年卒・留任)
理 事(新任)	植松 一	(48年卒)
" (")	横山 次郎	(60年卒)
幹 事(新任)	萩原 達也	(38年卒)
" (")	金井 克行	(44年卒)
" (")	皆川 武久	(48年卒)
" (")	安則 成雄	(58年卒)
" (")	若目 田守	(H8年卒)

総会閉会の後、午後3時より場所を学部食堂棟3階に移し、懇親会が開催され、約2時間半に渡り祝宴は盛大に執り行なわれました。



学科の近況

【卒業生、新入生】

平成19年度は、154名が卒業し、新しく満喜葉会正会員の仲間入りをしました。本年度は、167名(男子75名、女子92名)が動物資源科学科に入学しました。

【退 職】

川路利和研究所教授(資源動物管理理学研究室)が平成20年2月、成島玲子副手(学科事務室)が平成20年3月31日付で退職されました。永年に亘り、学生の教育・研究、学科運営等にご尽力頂きまして誠に有り難うございました。

【新 任】

成島副手の後任として、星佳織さん(平成20年3月動物資源科学科卒)が実習助手(学科事務室)として採用されました。



星佳織実習助手

【昇 格】

本年4月1日付で、丹羽美次准教授(草地学研究室)が教授に昇格されました。また、岩佐真宏専任講師(野生動物学研究室)が准教授に、佐伯真魚助手(草地学研究室)が専任講師にそれぞれ昇格されました。先生方には今後、学生指導・研究活動での益々のご活躍を期待しております。

(山室 裕)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品産業構造研究室
0466-84-3409 事務局長 木島 実
E-mail: kijima@brs.nihon-u.ac.jp



◆平成20年度は校友会創設60周年、学科設立65周年

平成20年は食品経済学科が設立されてから65周年、校友会設立から60周年という記念すべき年であり、その祝賀会が6月7日(土)に、横浜の崎陽軒本店で開催されました。例年通りの幹事会を終えた後、「急変する中国の食料事情と日本の将来—中国産食品問題と業界の対応—」というテーマで食品関連業界で活躍するOB・OGに講演して頂き、その後に全体での討論も活発に行われました。続いて記念式典、祝賀会が開催されましたが、多数のご来賓を始め約145名の参加者をもって、盛大な祝賀会となりました。この間、記念事

業として現役学生の就職活動を支援す目的で、OB・OGが自分たちの就職活動や社会人としての体験などを3年生に講演する企画を行ってきましたが、これも記念事業だけで終わらせることなく、今後も継続して支援することが決まるなど、校友会と現役学生との結びつきが益々太いものとなって行くことが確認できる祝賀会でもありました。その際、以下の通りに新役員も承認されました。

会 長：島田圭一郎
副会長：菅井敦也 横川 屹 藤井正気
常任幹事：笹井秀昭 菊池宏之 大川高太郎
村田麻衣子 井桁義詠
会計監事：飯嶋雄次 根本八重子
(敬称略)

◆学科の近況

新入生

今年の4月、当学科では169名(男子93名、女子76名)の新入生を迎えました。新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図ることを目的とした恒例の新入生研修会は、4月19日(土)に鶴沼海岸で実施しました。好天に恵まれ、地引き網でとれたシラスを天ぷらにして食べ、ビンゴ大会、上級生による学生生活の過ごし方のアドバイスを受けるなど、1年生にとっては大学生活のこれからを知り、友人を作るきっかけとなった一日でした。一方、雨天となってしまった「スポーツフェスタ2008」は5月31日(土)に体育館で行われました。昨年に引き続き学生のデザインによるお揃いのTシャツで相互

の連帯意識も深まり、熱気のこもった応援により大縄跳びは3位入賞を果たしました。

多様な現地研修

2004年度から始まった多様な現地研修も定着しつつあり、インターンシップでは8名の学生が食品メーカーや流通業などで研修を行い、いきいきとした体験報告を行いました。また、海外フードシステム現地研修では20名の学生が8月24日から9月1日までタイを訪問し、アジアにおける食料生産から加工、流通、外食産業の実態を学ぶと共に、タイのカセサート大学およびコンケン大学の学生との交流の機会も持つことが出来ました。

【人 事】

本年3月末日をもって稗貫峻教授が退職されました。4月には安村碩之先生と木島実先生が教授に昇格され、6月をもって安村教授が退職されました。9月には長期海外派遣研究員として宮部和幸准教授がオランダへ1年間の留学に出発し、また半年間イギリスに留学されていた盛田清秀教授が9月末に帰国されました。多くの海外経験が学科の研究・教育に反映されていくことでしょう。

最後に訃報のお知らせですが、清水高房先生が昨年8月に、また水村勝彌先生が本年5月にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。(磯田みゆき)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

平成19年度あすなろ会 総会・懇親会を開催

平成19年10月13日(土)東京都千代田区のアルカディア市谷において、平成19年度あすなろ会総会及び懇親会が開催されました(隔年開催)。会則の改正、平成17・18年度事業経報告、同会計決算報告、監査報告、平成19・20年度事業計画案、同予算案、積立金使途、新理事の承認、平成19・20年度役員についての議事が行われ承認されました。

平成20年度理事会の予定

平成20年度理事会は平成20年11月20日(木)に開催される予定です。

塩沢先生退任・学科の人事

平成19年12月に塩沢南海治先生が退任されました。学科での長年にわたる教育研究活動ばかりでなく、学科校友会におきましても、事務局長をはじめとする校友会事務局の諸々の活動に力を注いでいただきました。心よりお礼申し上げます。

本年4月には阿部恭久教授が着任されました(森林微生物研究室)。3月には菅原真由美実習助手が退任されました。

昭和34年度 林学科卒業・同窓会開催

平成19年11月27日(火)に、東京都新宿区高田馬場の揚子江において、昭和34年林学科卒業の皆様の同窓会が開催されたとの便りが事務局に届きました。「多数とはいえませんが、15名の出席者で昔話をして大いに楽しんで終わることができました。いまだ少し早く開催しておけばと思いました」とのことでした。よきひとときをお過ごしになったことと拝察いたします。



昭和34年林学科卒業
同窓会にお集まりの皆様

実習だより

2年生の森林生態学実習で群馬県の坤六峠へ、ブナ林の観察に行ってきました。坤六峠は水上演習林の近くとはいえ、みなかみ町と片品村の境に位置し、もう直ぐそこは尾瀬です。皆でキャンプをしておきの実習ですから、ブナの大木にロープをかけて、巨大タープを張って、食事、勉強も休憩も全てこの下でしています。ここは学生が自然を学ぶのに大変心地よい場所です。



坤六峠ブナ林で学ぶ学生たち
森林生態学実習

皆様へ

昭和34年度林学科卒業の皆様のように、あすなろ会々員の同窓会や、校友のご活躍の様子をお知らせください。どのようなことでもお知らせいただければ幸いです。会報記事として掲載させていただきます。よろしく願いいたします。

(鍛代邦夫)

桜水会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋資源育成環境学研究室
0466-84-3680 事務局長 杉田 治男
E-mail: sugita@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度桜水会 総会・同窓会・合同懇親会を開催

平成20年6月21日(土)午後1時より湘南キャンパス10号館において平成20年度桜水会理事会・代議員会および総会が開催されました。吉田良之会長の挨拶の後、平成19年度事業報告案、決算報告案、監査報告があり、承認されました。本年度は役員改選の年であり、続いて新理事が選出され、会長には吉田氏が再任されました。その後、平成20年度事業計画案、予算案などが審議され、承認されました。本年度は新企画として、午後3時より「10年毎の同窓会」が開催されました。これは、卒業後2年(55期)、10年(47期)、20年(37期)、30年(27期)、40年(17期)、50年(7期)目ならびに70歳以上の卒業生を対象とした桜水会主催の同窓会です。先ず吉田会長からの挨拶、杉田事務局長からの学科の現状報告が行われ、続いて友行一紀氏(11期、明華貿易(株))による記念講演「演題: 中国貿易



平成20年度桜水会懇親会

に携わって」が開催されました。本講演では長年にわたる中国との係わり、またその間における漁業・養殖および加工の変遷ならびに開発(活蛤の輸入、はたて貝の移植など)に関する貴重な話を聞くことができました。さらに午後5時より会場を食堂棟3階N.U.ホールに移し、同窓生および教職員による記念写真撮影が行われました。午後5時半より懇親会が開催されました。この懇親会には学科に在職された恩師も多数出席され、来賓、恩師、学科教員、桜水会正会員ならびに準会員の在学生により盛大な懇親会が開催されました。

学科の近況

【新入生】 海洋生物資源科学科は本年4月に新入生165名(男子112名、女子53名)を迎えました。新入生の相互交流や学科教職員とのコミュニケーションを図るため、鶴沼海岸での地引き網および新江ノ島水族館見学を内容とした新入生オリエンテーションを4月26日(土)に行いました。網に入った魚を見て感激する学生、恐る恐るクラゲに触れる学生、図鑑で名前を調べる学生...海洋生物に興味を持つ様々な新入生の姿がみうけられました。また、新江ノ島水族館では同館勤務の本学科卒業生から現場の話を聞く機会があり、新



新入生オリエンテーション鶴沼海岸



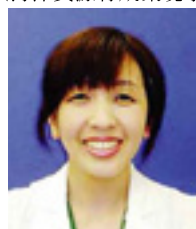
新入生オリエンテーション新江ノ島水族館

入生は卒業生の話に聞き入っていました。その後各班に分かれて学科教員と食事および懇談し、学生間および学科教員との交流を深めることもできました。

【退職】 平成20年3月末日をもって望月篤教授(海洋生物機能応用学研究室)、廣瀬一美教授(魚医学研究室)が定年のため退職されました。両先生のこれまでのご尽力に感謝すると共に、今後のご健勝と更なるご発展を祈念致します。また、同じく3月末日をもって畠中聖奈副手が依願退職されました。新しい職場でも元気に活躍されている姿が思い浮かびます。

【昇格】 平成20年4月1日付けで、松宮政弘准教授(海洋生物機能応用学研究室)が教授に、高井則之助手(海洋生物資源管理学研究室)、糸井史朗助手(海洋資源育成環境学研究室)が専任講師に昇格されました。

【新任】 平成20年4月1日より北原三代臨時職員が学科主任付で着任されました。主に学科事務を担当されます。(松宮政弘)



北原 三代臨時職員

工学会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m-aoki@brs.nihon-u.ac.jp

会員・準会員との交流・情報交換を通じて 更なる活性化をめざす

酒川和男会長を中心とする第16期体制のもと、会の目的である「会員の親睦」と「母校の発展」を実現すべく、学科や準会員(学生)との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会ホームページの充実など会員への情報発信を展開しています。

【総会・講演会・懇親会】 平成19年12月1日(土)に、湘南キャンパスで開催した総会では定例となった講演会も併せて実施しました。



講演会の様子

この講演会では、本学科卒業生(昭和49年3月卒、静岡県立天竜林業高校教諭)の山本富久氏が、博士學位取得論文として取組まれた研究から「茶園地帯からの流出負荷について」と題した講演の他、平成19年8月に定年退職された、中村良太前教授をお招きして『世界の水に関する思想の潮流』と題しての講演をいただきました。

懇親会では、酒井健夫学部長(現総長)をはじめ、校友会各分会の会長をお迎えして、会員と準会員との交流がなされました。

【準会員との交流・支援】 スポーツフェスタにおける学科Tシャツや卒業時の記念品の贈呈等の他、一年生の授業のひとつである「フレッシュマンセミナー」へ経済支援も例年どおり実施しています。卒業謝恩会では昨年度に引き続き、学業及び地域社会貢献等に励んだ卒業生5名に対して「工学会会長賞」を授与しました。また、1年次研修会の一環として本年7月に実施した『学生時代をどう過ごすか-OBOGからのアドバイス』では、岩本彰氏(昭和56年大学院修了)と小林智哉氏(平成20年大学院修了)の両氏をお招きしての講演の後、懇親会を実施しました。ご自身の学生生活と卒業後にかかわられた仕事の経験を踏まえた内容に、新入生は将来の就職についても考える機会を得たようです。

【工学会ホームページによる情報発信】

本会では、ホームページ(HP)の整備により、会員・準会員に対する情報提供の充実化をはかっています。HPでは、年間の事業計画やイベント情報(年間予定・トピックス・イベント記録写真)などが掲載され、随時更新しています。是非ともHPへアクセスしていただき、イベント等にご参加ください。(http://www.bae-kougakukai.org)

学科の動向

本学科はJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定継続に取組んでおります。



中村教授・八長副手の送別会にて

OB-OGの皆様で技術士・技術士補を取得の方は、学科HPから情報登録のご協力お願い致します。

【人事】 平成20年3月、八長瑞栄副手が退職されました。学科事務をはじめ学生指導など、ご苦労さまでした。なお八長副手は、平成20年7月に本学科の長坂貞朗専任講師とご結婚されました。お二人のお幸せと併せて、これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。

平成20年4月に栗原伸治専任講師と鈴木哲也助手がそれぞれ准教授、専任講師に昇格されました。また、石田さちほ実習助手が着任されました。石田実習助手は、植物資源学科にて屋上緑化等にかかわる研究に取組まれ、昨年度卒業されての新任です。

【研究活動等】 糸長浩司教授・栗原伸治准教授・藤沢直樹助手が「キャンパス・エコビレッジの創造のための農・環境・建築創造教育」のテーマで日本建築学会より日本建築学会教育賞を受賞されました。また、鈴木哲也専任講師が「非破壊AE計測による農業用パイプラインの機能評価に関する一連の研究」で農業農村工学会技術奨励賞を受賞、笹田勝寛専任講師が「貴重な自然資源としての湿原・谷戸の水・土環境把握と保全に関する一連の研究」で環境情報科学センター学術論文奨励賞を受賞されました。今後のさらなるご活躍を期待したいと思います。

【事務局より】 会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが連絡先までE-mail又はお葉書にてご一報ください。

(藤沢直樹)

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成20年4月12日午後4時より本学湘南校舎食品科学工学科会議室において行われました。理事会では平成19年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成20年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成20年度F T 会総会および懇親会の開催

平成20年度F T 会総会が平成20年6月14日、横浜ベイシェラトンホテルにて行われました。総会は関村具由会長(第1期生)の挨拶で開会し、平成19年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平

成20年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。総会終了後、懇親会が開催され、多数のご来賓、会員の出席により、盛大に行われました。

○準会員(在学生)への活動

平成19年10月にF T 会援助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。12月8日には4年生を対象とした研究室対抗バレーボール大会を行い、懇親会費を援助しました。平成20年3月25日には第43期卒業生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T 会長賞を授与いたしました。平成19年度はLukito Fennyさんと村上 仁さんが選ばれ、金一封を贈呈しました。5月31日には学部スポーツフェスタが行われ、参加した新入生へ飲料物を贈りました。スポーツフェスタはたいへん盛り上がり、成績は、準優勝という素晴らしい結果でありました。また、今年度は、新たに2年生を対象に、6月7日に湘南海岸にて、地引き網を行いました。当日は晴天の中、バーベキューを楽しみながら、和気あいあいと学生同士、または教員と至る所でお話しが弾んでました。

学科の近況

○人 事

小田宗宏 教授が明治乳業(株)より、平成20年4月1日付で食品製造工学研究室(旧3研)に所属されました。また、松藤 寛先生(食品衛生化学研究室)が平成20年4月1日に准教授に昇格されました。

事務局より

会員の方で、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくF T 会のホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Eftkai/index.php>)を開設しました。こちらのページからも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)



卒業式



新入生



湘南海岸にて地引網

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営流通研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

学科70周年・拓友会60周年 記念祝賀会が挙行



平成19年12月1日(土)に日本大学生物資源科学部において「学科70周年・拓友会60周年記念祝賀会」が挙行されました。本年は、旧専門部拓殖科が1937年(昭和12年)3月に設立されて70周年、また、拓友会が1947年9月に結成されて60周年の節目の年にあたり、それを記念して行われました。当日は、日本大学副総長・生物資源科学部長の酒井健夫先生、本部校友会の若女井光男本部長、学部校友会の茂澤果会長他、各分会長、学部執行部の先生方、そして学科OBの浦野起央先生、緒田原涓一先生方など多数の来賓を迎え、OB・学生など総勢200名が出席しました。会場内では、新旧卒業生や恩師を交えて、昔話に大いに盛り上がりしました。

中国遼寧省にて海外研修



2007年度の海外研修は、9月3日から9日間の日程で、中国・遼寧省において実施しました。学生12名が参加、大連、瀋陽では関連施設を見学、遼寧省農村経済委員会においては遼寧省農業の現状と将来計画について講義を受けました。また本溪満族自治県で観光開発の拠点となっている鍾乳洞を見学したほか、高級中学校、バイオガス供給施設、カシミア工場などを訪問しました。経済発展を続ける中国の開発の現場はいくつも勢いを感じる場所で、開発プロジェクトのスケールの大きさも印象に残りました。

今回の海外研修を中国側でサポートしていたのは、かつて本学科で学んだ留学生の皆さんです。参加した学生にとっては、先輩が活躍する現場を訪問する研修でもあり、卒業後の進路や活躍の舞台を考える機会ともなりました。この場を借りて、お礼申し上げます。

環境美化に向けて

—1年次オリエンテーションを 今年も江の島で実施—

今年度は、5月17日(土)に江の島にほど近い片瀬東浜で「かながわ海岸美化財団」の協力を得て、環境美化活動として実施しました。昨年に続いて、地域貢献を実践しながら学生同士及び学生と教員との親睦を深め、学習動機を高めていくこと

などが狙いです。晴天に恵まれ、自然の豊かな江の島を対岸に仰ぎながら、学科教員・上級生有志を含め約170人が午前中いっぱい軍手にビニール袋という姿で汗を流しました。昼食は学科から弁当とお茶が支給され、出たごみは食後、上級生の協力を得て徹底的に分別されました。ごみを拾うことだけではなく、いかにごみを出さないかについても学んだ半日となりました。

新任・退任

(新任)朽木 昭文教授

朽木先生は日本貿易振興機構(JETRO)から着任されました。産業クラスター論を専門とされ、「地域研究(アジア)」「開発経済学」などを担当されます。趣味はスポーツ全般、なかでもテニス、野球はかなりのレベル。宮崎県出身。今後のご活躍を期待しております。

(新任)山本 緑副手

山本さんは本学科を3月に卒業したばかりです。拓友賞を受賞しました。趣味はスポーツ観戦で、在学中は倉内准教授のゼミでヒエの品種の識別について研究を進めました。埼玉県出身。今後のご活躍を期待しております。

(退任)益富 桜子副手

平成17年より本学科の事務を担当されてきました益富さんが退職されました。3年間、どうもありがとうございました。



朽木 昭文教授



山本 緑副手

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部生物資源学科 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度総会・懇談会の開催



平成20年6月14日、「むつあい会(短期大学部農学科)」会員、「生活環境学科校友会(短期大学部生活環境学科)」会員と生物資源学科準会員が参列する中、設立総会がおこなわれ、満場一致で「日本大学短期大学部湘南校友会」が誕生しました。会則も決まり、今後湘南校舎にて学んだ短期大学部の卒業生が一体となり校友会を盛り立てて行く予定です。総会の後、発足記念パーティーが本館スエヒロにて開催され、校友会の分会の皆様方にもご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中でのパーティーとなりました。

尚、新校友会の新役員は下記の通りです。

会長：鈴木勝春(旧むつあい会)
副会長：福井祥子(旧生活環境学科校友会)
事務局長：蒲原義明
監事：滝沢章(旧むつあい会)
市川美智子(旧生活環境学科校友会)
※他1名は生物資源学科の卒業生より選出予定

学科の近況

【新入生】

今年度は生物資源学科が設立され二年目となり、新たに107名(女子:48名、男子:59名)の新入生が入学してきました。現在、二年生と合わせ219名(女子:104名、男子:115名)の学生が在籍しています。4月18・19日には、毎年恒例の軽井沢新入生研修会が開催され、新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図る事ができました。また、5月31日にはスポーツフェスタが行われ、新入生は大健闘し、企画リレー3位、大縄跳び優勝、総合順位3位と大変な好成績を収めました。



【卒業生】

平成20年3月25日に農学科から42名、生活環境学科から70名が無事卒業しました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入83名、他大学への編入3名、留学1名、専門学校1名、就職14名、その他はアルバイト・家事なのでした。他大学の編入は東京農業大学、麻布大学など、就職先は第一勧銀信用組合や静岡中央銀行、(株)オンワードなどが挙げられます。

【昇格】

平成20年4月1日付けで蒲原義明助教授(教養・国語研究室)が教授に昇格されました。

【海外留学】

新町文絵先生(植物機能開発学研究室)が、本年3月より英国(The Rothamsted Research, Hertfordshire UK)に留学され、1年間Hawkesford博士のもとで行なう予定です。

【事務局より】

会員の方で住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報ください。

(山内綾子)

応用生物科学学科校友会

◇応用生物科学学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学学科の近況

現在応用生物科学学科の在籍学生数は612名、学年別では、4年生145名、3年生150名、2年生131名、1年生186名となっています。男女の数は、それぞれ392名と220名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は、博士前期課程37名、博士後期課程2名となっています。

本年8月24日付けで、前学科主任の花澤重正先生が学部次長に就任されました。科内会議において細野邦昭先生が新学科主任として選出され、9月1日に就任されました。両先生の今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

【新入生歓迎会】

平成20年4月25日に、本館地下のカフェテリア(スエヒロ)において、新入生歓迎会を盛大に行いました(写真1)。学科の教員と100名以上の新入生が参加しました。新入生は未成年者が多く、飲酒が禁じられて



写真1：新入生歓迎会の風景

いるため、飲み物はソフトドリンクだけとなりました。お酒に慣れていない先生方には、少々物足りない感があったようですが、皆、学生と楽しく懇談し、相互の親睦を深めていました。

【研究室対抗バレーボール大会】

平成20年9月5日に4年生、大学院生、教員による研究室対抗バレーボール大会が体



写真2：バレーボール大会の参加者たち

育館で盛大に行われました(写真2)。参加者は皆、いい汗を流し、怪我もなく楽しい一日を過ごしました。試合結果は、生命工学研究チームが生体制御科学研究チームを破り、見事に優勝しました。蛋白質科学研究チームは健闘し、3位に入賞しました。試合終了後、食堂2階において表彰式と懇親会が行われ、お互いの健闘を讃えあっていました。



球技大会にて
定野友美 実習助手(左) 岩垣志乃 副手(右)

【事務局より】

事務局では会員の皆様方が校友会に対して何を期待しているのか、どのような活動を行ってほしいのかなど、皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しております。ご一報くださいますよう、お願い致します。最後に、住所変更、改姓、お問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

(司馬 肇)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net



9月6日(土)KKRホテル仙台(仙台市)にて平成20年度(第5回)総会・懇親会を開催しました。来賓として江刺琢磨(農芸化学・S30)



校友会相談役、遠藤文雄(医学部・S34)オール日大校友会宮城県支部長、池田卓郎(農芸化学・S48)校友会山形県支部事務局長にご臨席いただき、ご懇情あるご祝辞をいただきました。総会は全案原案り承認いただき、母校の興隆発展に一層努力することを確認しました。また、仙台市に舞台が移った「全日本大学女子駅伝対抗選手権大会(杜の都駅伝)」で力走する母校選手の道応援に横断幕と応援旗をもっと準備して欲しいとの声や、下馬、六会、馬堀を懐かしんで訪ねるツアーの計画等、時間の経過も忘れて和気藹々とした懇談の中でありましたが、次回の再会を楽しみに全員で校歌を斉唱し、片岡俊正(農芸工学・S59)幹事の一本締めで盛会の中にお開きとなりました。(事務局 桜田 昇)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_kkeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



平成20年度山形県支部総会は平成20年2月16日(土)かみのやま温泉「にほんの宿古窯」にて会員28名出席、日本大学生物資源科学部校友会副会長の内田俊太郎氏、森林資源科学部会長の赤塚敏夫氏、宮城県支部の武藤正氏、地元からは日本大学山形高等学校

校長古屋逸校長、日本大学工科系校友会山形県支部小林高明支部長の来賓をお迎えして開催しました。

総会は小松文嗣支部長が都合で欠席の為、植松副支部長の挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に鈴木伸広氏(生物環境工学科56年度卒)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定され終了しました。その他では、県支部会員数は、平成19年度現在約600名、会費などの振込みをいただく会員は毎年減少しています。19年度より総会資料に会員の事業所、会社等の広告を出していただきPRを行いました。

また、校友の絆と親睦を深めるため、多くの先輩方が苦労して築き上げたものから、若返りを目標に、同期の友達や職場内の校友への声かけなど、一人でも多くの校友に参加を頂き、興味がわく新鮮な情報交換の場にしたいと話されました。

総会終了後講演会に移り、講師には昭和40

年農獣医学部林学科卒業、埼玉県農林部に勤務されその後(社団法人)治山林道協会に勤務された、あすなろ会会長赤塚敏夫先生より「首都圏における森林・林業について」と題し、森林は人類の生存にとって不可欠の存在であり、地球上で最も現存量の多い生物資源ではあるが、人工の増加に伴い農地、森林の宅地化が進んできたことについて具体的な例を挙げながらご講演いただきました。引き続き来賓の校友会副会長の内田俊太郎氏より「校友会の近況について」、名古屋校長からは「日大山形高校の近況」のお話をいただきました。

懇親会では、小松文嗣支部長の挨拶、来賓からのご挨拶をいただき乾杯となりました。学科毎の自己紹介、近況報告などでは平成卒業された方の参加が多くなり、時間と共に盛り上がり懇談の中で、最後に日本大学校歌を斉唱し、万歳三唱して盛会の中にお開きとなり、翌日朝食後次回の再開を誓い散会となりました。

(副支部長 小林憲一)

山梨県支部の近況

連絡先 〒405-0044 山梨県山梨市市川1403
支部長 古屋 勝美
TEL&FAX.0553-22-5183
E-mail: furukathu1211@fruits.jp

★ 役員会及び総会の開催

定例役員会を4月28日 石和町 キッチン「ひろた」で開催しました。これまでの活動報告と会費徴収状況及び会計報告をいたしました。今後の活動について定期総会の開催と規約の一部改正について協議しました。

定期総会については11月29日(土曜日)石和温泉 華やぎ章「慶山」にて開催を決定しました。学部校友会より来賓として会長外関係者の出席をお願いしています。多くの会員出席を期待し、盛会に執り行ないたいと計画しています。

★ 訃報

山梨県支部結成に尽されその後支部長として活躍されました支部相談役 遠藤晴正殿には平成19年11月27日ご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。(支部長 古屋)

高知県支部の近況

連絡先 〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforoma.or.jp
※連絡先:高知市南御座9-19から高知市南御座12-3に変更となっております。

本年高知県支部会は創立20周年を迎えました。これも本部校友会様、大学の先生方、そして高知県支部会員の先輩諸氏のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。



本年は支部20周年記念事業として、7月12日(土)湘南キャンパスで行われた本部総会に、当支部より8名が参加させていただきました。数十年ぶりのキャンパス訪問という会員も多く、高坂先生のご案内で校内見学をさせていただき、その上本部の皆様や各県支部の皆様と交流を深めることができて、大変有意義な時間をすごさせていただきましたことを、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

続いて去る8月30日(土)高知市の料亭「得月楼」において、第20回高知県支部を開催いたしました。ご来賓の村山校友会事務局長代行、茂澤 泉顧問、特別会員の高坂鉄雄先生、田中薫様を県内各地から集まった校友が囲み20名の出席者となりました。総会は森田支部会長の本部総会参加の報告と挨拶ではじまり、引き続きご来賓からそれぞれお祝いの言葉を頂戴致しました。

村山様には総長・学部長選挙、本部の会長改選と選挙が続いた件、内田新会長の運営方針、副会長5名とした件、正会員の増加を勧める件等をご報告いただきました。

茂澤顧問からは、高知県支部との思い出、県支部10周年記念事業として台湾へ同行したことなどをお話いただき、会長在任中の感謝をのべられて、ご挨拶を締めくくられました。

高坂先生からは、昭和54年に設立したいもづる会高知県支部からつながる校友会高知県支部の創設のお話や、高知県が初代橋川渡先生、米来速水先生、高橋正郎先生と多くの食品経済学科学科主任を輩出しておりつながりが深いこと、「ぼけない5か条」のお話などをいただき、「支部30周年、40周年にはお呼びいただけたら必ず駆けつけます」とお話を締めくくられました。

最後に田中様より、自己紹介と20周年へのご祝辞をいただき、議長に森田支部会長を選出して議事にはいりました。

平成19年度事業および収支決算報告が全会一致で可決されたのち、一部理事が改選され、森田支部会長中西副会長、事務局前川は留任と決定いたしました。平成20年度活動方針および予算と滞りなく進み、当支部最長老の竹村守暉先輩の乾杯で懇親会が開催されました。

高知県に伝わる伝承遊戯、箸拳や可杯(べく杯)をご来賓も交えて楽しみながら、意見を交換し充実した懇親会となりました。最後に岡林正幸理事と森田支部会長の音頭で全員で校歌を斉唱し、日本大学にエールを送ってお開きとなりました。

(高知県支部事務局 前川卓也)

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
事務局長 小牧 弘
TEL&FAX.0466-84-3659
E-mail:komaki@brs.nihon-u.ac.jp komaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp



枝豆収穫祭開催

校友会の新しい試み

本支部会の歴史は古く、昭和23年第1期生、佐々木弘康先生の呼びかけにより、神奈川に在籍、勤務している卒業生の集い」を目的とした「日本大学校友会 神奈川県支部(農獣医)生物資源科学部会」と称した親睦の会がありました。

時代の流れと共に大学校友会の機構改革により、この度(H19)、学部校友会の系列下に構成換えをして「日本大学生物資源科学部校友会 神奈川県支部」と称して、開催することとなりました。

近年、どこの校友会でも共通する悩みは、総会だけでなく進んで校友会に参加する校友が少なくなったことだと思います。現在の校友会は会の危機であり、会の運営を再検討しないと参加者不在の校友会が実現すると思います。

生きがいを持って老後を楽しむ方法はいくらでもあると思いますが、定年も退職もないのが校友会で、同じ環境で学んだ旧友と共に活動できる安心感は他に類を見ないと思います。校友会に活動拠点を見いだすスペースがあれば、生きがいの継続が可能だと思います。

現実に退職した横浜住人の人達が相模原の農家から畑を借りて作物を作って充実した生活をおくっている事実があります。

農獣医学部・生物資源科学部を卒業した校友達は自然科学を学んできているために「作

る楽しみ・成長の楽しみ・健康の喜び」を知っている校友の集まりであります。その点を本会長 秋元美治氏は強調されたのです。

ただ年に1度集まって酒を交わすだけの校友会ではなく、共通の目的・喜び・満足感等、「共通の話題」が持てる様な事業を展開する。例えば「収穫祭」を各時期に合わせて開催して共に喜びを共有することを趣旨とした会にしたいとの会長の熱意により、共に楽しむための収穫祭が展開されることになりました。

事務局長の私はなにをすべきか考えましたが、先ずは、できることから始めよう。退職する前後から「校友会の畑仕事」が待っている状態を校友会で企画する。そこに校友会の会員が意義を見だして参加することが大切だと思います。細々とでも何人かができることから作物生産をして、収穫祭を実施することにあります。

現在、校友会の食材等は購入すればきれいで、そろったものが簡単に手に入ります。しかし、本会に使う食材は自分達が作った生産物で会を開催することに意義があるのです。初めてやり始めた企画であり、計画倒れにしないためには、見切り発車でも動き出さなければ何も実現しないとのことから、農家の畑を一部借りる手続きをしました。大学当局では卒業生は学外者の扱いになりますが、「校友会の活動・校友会の新しい試み」のために協力願いたい旨を農場長 野村和成氏にお願いしました。神奈川県との立地条件でもあり支部会の「会員の生きがい」をつかむことができるかも知れない。また、「校友会の新しい方向性」が見いだせるかも知れない。私としては、学内勤務の私が窓口となって「神奈川県支部会員の活動拠点を構築する」ことが当面の目的と考えました。一人でも二人でも良いから実施し始めて収穫祭をすることでした。当面、現場を指導してくれる会員には元日本大学農場、農産部勤務の鈴木明夫氏にお願いしました。快く引き受けて下さったのです。作物は枝豆、里芋、サツマイモ、大根、ピーマン、そばまたは小麦

を作付けすることとしました。そばや小麦の作付けの指導は国際地域開発学科で教鞭をとられた権丈敬次氏にお願いしました。神奈川県支部の校友会は自分達が食材を作製・調達して実施する。その為の作付け計画を実施する。この調子で収穫祭のたびに何回か校友会が開催できると考えています。農業に興味のある方、農作物を作ってみたい希望をお持ちの方は家族と共に参加して下さい。自分一人だけでやり始めるには金も時間も勇気も必要です。手取り早い校友会の畑の作業に参加してみ下さい。近い内に定年退職がせまっている会員の方々、家族の方々と一緒に進んで参加してみして下さい。体力のある内、後からでは遅くなります。今がチャンスです。

写真は平成20年8月9日に「枝豆収穫祭」を開催したものです。朝取りした枝豆をその日の内に本学生産センターで枝豆をゆでてザルに出しましたが食べきれずピーマンと一緒に各自お土産に持って帰ってしまいました。最初の収穫祭で参加者もこじまじりた会ではありましたが何か充実した達成感を感じたのは私だけではないと思いました。現在、里芋、サツマイモ、大根が作付けされていますから11月の末か12月には何とか「芋煮会」が開催できるのではないかと楽しみにしています。また、そばができれば「そばの収穫祭」小麦ができれば「うどんそばの会」を開催、そばを打てる会員にお願いし指導してもらおう等今から校友会開催の楽しみがふくらんでいます。また、暮れには「餅つき大会」を開催したいなど夢をふくらませています。

参加希望者は上記事務局長のFAXまで連絡して下さい。次期の収穫祭開催日、作物生産活動日時等を連絡いたします。皆さんの知識と力を合わせて生産する喜びを共有し、収穫祭で皆と盃を酌み交わそうではありませんか？気の合う友達をお誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

(記責 小牧 弘)

校 友 だ よ り



昭和60年 農芸化学科卒
湖畔の杜レストランORAE &
田沢湖 湖畔の杜ビール
株式会社トースト
代表取締役 門脇 博之

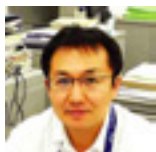
秋田県の田沢湖のほとりにビールの醸造所兼レストランを構え、お陰様で今年で10年目をむかえます。

卒業しましてから、国税庁醸造試験場(現:酒類総合研究所)で醸酵について深く学ぶ機会を得、その後食品メーカーにて納豆菌の研究や商品開発に携わりここでも日本の醸酵文化を学ぶことが出来ました。それらで得られた知識や経験、更には農業と観光事業を結び付けたいとの想いから醸酵(酒・ビール)、農業(地産)、観光(地消)をコンセプトに私はビール醸造とレストラン運営の会社を起業するという道を選びました。自分のイメージするビールを醸し、そのビールでお客様が笑顔になれる瞬間は至福の時であり、この道を選択してよかったと思える瞬間でもあります。

いわゆる地ビールブームであった時代は目新しいものという事で色々なビールにトライしていた方たちも、やはり日本人としての味覚に合うものという観点から、最近では美味しさの評価が非常にシビアになっております。その点では、弊社のブランドである「湖畔の杜ビール」は、当初より「日本人が飲む為の、日本人が造るビール」

をモットーにして参りましたので、お陰様で多くの方からご指示を頂いております。これも大学で学んだ日大魂が今の会社経営に生かせるからだと自負しております。

出来たてのビールを味わえ、また地場の野菜を美味しく召し上がって頂く為の「湖畔の杜レストランORAE」は日本一深い田沢湖が一望できる環境にあります。田沢湖は人気の乳頭温泉や玉川温泉、東北の小京都と言われる角館にも近く、東北では欠かせない観光地です。食の問題が取りざたされる昨今ではありますが、真の意味で地場を活かすことでお客様にお喜び頂ける存在でありたいと思っております。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さいませ。



平成10年3月
獣医学科卒業
菊池 栄作

大学院修了後、平成14年に農林水産省に入省しました。動物用医薬品の検査・研究等に携わった後、現在は、内閣府食品安全委員会事務局評価課に出向し、プリオン、かび毒・自然毒等の食品健康影響(リスク)評価を担当しています。主な業務内容は、プリオン及びかび毒・自然毒等専門調査会の運営です。具体的には、専門調査会でリスク評価にご尽力頂いている専門委員の先生方のスケジュール調整をはじめ、リスク評価に必

要な科学的知見及び各種の統計データを用いて資料を作成することです。最新の学術論文を読むとともに、内外の先生方からご教授頂いた知見をふまえ、先生方が、中立公正な立場から、適切かつ円滑なリスク評価を実施して頂けるような運営を心がけています。

学術論文を読み、そこで得た科学的知見を基に業務を遂行するにあたり、本学に在籍させて頂いた間にご指導頂いたことが、大変役に立っております。この場を借りまして、ご指導頂いた本学の先生方に深く感謝いたします。

本委員会は、赤坂見附駅近くに位置するプルデンシャルタワーの6階にあります。職場は、綺麗で快適です。赤坂近辺は多くの飲食店があり、仕事を終えてからの一杯が、何よりの楽しみです。また、食品安全委員会は、行政機関でありながら、農学、農芸化学、農業経済、獣医師、医師、薬剤師、語学のスペシャリスト等、様々な専門や経歴を持つ者が所属し、日々多くの刺激を受けています。

食の安全に対する意識が高まる中、リスク評価を通じて食の安全に貢献出来る現在のポストを誇りに思い、今後とも、多くの方々の指導を頂戴しながら、微力ながらも国民の健康の保護に向け、精進していきたいと考えております。

最後に、食品安全委員会のホームページ(<http://www.fsc.go.jp/>)に、是非アクセスをお願いいたします。

※次頁にも校友だより掲載



校 友 だ よ り



食品経済学科で良かった
真弓 敦史
(昭和61年3月卒業)

私は今、神奈川県大和市中央林間にある「欧風台所ラ・パレット」というレストランを経営しています。

昭和61年(1986年)に卒業し、「すかいらく」に入社しました。その当時は話題になっていた「イエスタデイ」というレストランのマネージャーになることが夢でした。

レストランで仕事をしたいと思ったのは、多くの食材を取り扱うことができ、サービス、人事、企画、経営などいろいろな視点から物事をみて、勉強することができると思ったからです。

今も、レストラン経営をしながらサービスもします。ワインが好きだったことと、より良いサービスの向上を目指した結果、日本ソムリエ協会のソムリエ呼称認定試験にも合格しました。縁あってフランス・ボルドー地方ボムロールワインのシュバリエもいただきました。ワインの各種キャンペーンなどでも賞をいただき、フランスワインの研修に行くこともできました。食のスペシャリストを目指して、まだまだやりたいことがたくさんあります。

あります。

私のモットーは、「やる気」と「元気」と「笑顔」です。シンプルですが、バランスがとれていないとだめなんです。ワインと同じです。

自分の仕事に自信と誇りを持ってお客様に満足していただくこと。お客様と喜びを共感することができるこの仕事、素晴らしいです。いろいろな場面で選択、決断しなければならない時があります。目標に向かって選んだ道で良かったと、後悔しないように進んでいくことが大切だと思います。いつも思います。食品経済学科を卒業して良かったと。自分ひとりでできないこと、たくさんあります。支えて下さる全ての方に感謝しています。ありがとうございます。

◆校友会事務局からのお知らせ◆ 【学部祭】

10月25日(土)～27日(月)の3日間、藤沢・湘南校舎にて開催されます。今年のテーマは「優遇・やさしさはめぐる」です。同時に25、26日はオープンキャンパスも開催されます。立派な施設の見学や講演会への参加は如何ですか。25日はオープンセレモニーとメインコンサート(シンガーソングライターのスガシカオが出演!）、26日には講演会、フリーマーケット、第5回ミスコンテスト、野菜の叩き売り、夜には花火大会、27日は後夜祭が催されます。勿論、学生達の発表も楽しみです。校友会のブースもあります、お立ち寄り下さい。

【箱根駅伝応援】

毎年恒例の読売新聞社主催、箱根駅伝は1月2日(金)、3日(土)の2日間開催されます。学部校

友会では例年通り、藤沢遊行寺坂上の焼肉ヨンドン(神奈川県スバル)前を中心に沿道にピンクの校友会旗を立てます。共に熱い声援を送りたいと思いますので、ご家族誘い合わせてご参加下さい。選手が通過後はヨンドンの中でテレビを見ながら最後まで声援したいと思います。

【総会・懇親会】

平成21年度総会とは本誌の中に告示されていますが、久しぶりに会場を東京・品川に移しました。是非ご参加下さい。今度の総会は学部校友会創立60周年を祝って記念式典も同時に開催される予定です。平成21年7月11日(土)にお会いしましょう。

【正会員募集】

日本大学校友会(本部)では、母校や後輩達を積極的に応援するために正会員を募集しています。生物資源科学部部会所属で正会員になると学部

校友会に会費の還付があります。輝いている後輩達を応援する活動にご支援下さい。申込用紙は学部校友会事務局にあります。年会費は1万円です。入会頂く与会報誌「桜縁」が年2回送付されます。ご連絡をお待ちしています。

【その他】

ホームページを新しくしています。もうご覧になりましたか?住所を変更された方の届けはホームページの中の「校友会について」のページから簡単に変更届ができます。会報のお届けには重要な住所変更届をお忘れ無く。

又、ホームページでは新しい情報掲載に努めますので、情報の提供をお願いします。

連絡先: 藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部校友会事務局

Tel&Fax 0466-84-3799 E-mail koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部校友会

役員・事務局名簿

平成20年8月2日現在

名誉会長 徳山 龍明	農化昭和38年卒	幹事 山内 正敏	海洋昭和38年卒
会長 内田 俊太郎	国際昭和43年卒	鈴木 重則	環工昭和52年卒
副会長 石川 稔矩	植物昭和40年卒	青木 正雄	環工昭和46年卒
赤塚 敏夫	森林昭和40年卒	栢 英彦	食科昭和41年卒
関村 具由	食科昭和41年卒	竹永 章生	食科昭和56年卒
山本 捷	動物昭和44年卒	谷地 三知也	国際昭和44年卒
酒川 和男	環工昭和47年卒	早川 治	国際昭和47年卒
幹事 赤木 洋行	植物昭和47年卒	大谷 憲司	応生平成4年卒
藤井 秀昭	植物昭和44年卒	飯塚 崇	応生平成4年卒
木嶋 弘倫	農化昭和37年卒	司馬 肇	農化昭和56年卒
駒井 功武	農化昭和36年卒	鈴木 勝春	短大昭和34年卒
坂井原 祥史	農化昭和55年卒	福井 祥子	短大昭和62年卒
中川 秀樹	獣医昭和40年卒	蒲原 義明	文理昭和53年卒
佐藤 常男	獣医昭和50年卒	顧問 茂澤 杲	農化昭和27年卒
津曲 茂久	獣医昭和49年卒	相談役 江刺 琢磨	農化昭和30年卒
小杉 幸彦	動物昭和42年卒	監事 遠藤 克	動物昭和41年卒
丹羽 美次	動物昭和48年卒	長尾 壯七	獣医昭和27年卒
島田 圭一郎	食経昭和39年卒	勝野 武彦	植物昭和42年卒
菅井 敦也	食経昭和40年卒		
木島 実	食経昭和53年卒	【事務局】	
宮島 吉夫	森林昭和46年卒	事務長 村山 進	食経昭和31年卒
阿部 和時	森林昭和51年卒	(事務局代行)	
吉田 良之	海洋昭和41年卒	事務局員 山本 捷	動物昭和44年卒
鳥居 太郎	海洋昭和39年卒	事務局員 熊澤 恵美子	

(卒業学科名は最新の学科略称に統一しました)

平成20年10月1日

平成21年度通常総会通知について

日本大学生物資源科学部校友会

会長 内田 俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会会則第16条に基づき、平成21年度通常総会を下記の通り招集する事を通知致します。会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

開催日時: 平成21年7月11日(土) 午後2時より

開催場所: 品川プリンスホテル

(会場については当日、出入口に表示)

〒108-8611 東京都港区高輪4-10-30

TEL.03-3440-1111

電車では新幹線、JR線、京浜急行の品川駅(高輪口)から徒歩2分品川駅(高輪口)は、山側で、第一京浜国道(15号線)を渡った所

議題: 議題1. 平成20年度一般経過報告
議題2. 平成20年度会計決算報告並びに監査報告
議題3. 平成21年度事業計画・予算案
議題4. その他

(議題については当日までに、幹事会決定により変更される場合がある事をご了承願います。)

会費: 記念式典並びに懇親会参加者は、当日、会費を申し受けます。

当日は総会終了後、本会の創立60周年記念式典と懇親会を同じホテル内にて挙行致します。記念式典は午後3時半頃から、懇親会は午後5時頃からの開催を予定しております。

以上

会報編集委員

農学校友会	野村 和成	桜水 会	松宮 政弘
紫友会	荻原 淳	工学 会	藤沢 直樹
角笛会	加納 壘	F.T. 会	阿部 申治
満喜葉会	山室 裕	拓友 会	早川 治子
いもづる会	磯田 みゆき	湘南校友会	山内 綾
あすなろ会	鍛代 邦夫	桜友 会	馬 肇

日本大学生物資源科学部校友会

ホームページアドレス

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~koyukai/>

またはインターネット検索機能で「日本大学生物資源科学部校友会」で検索して下さい。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会

〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL・FAX 0466-84-3799

E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所 ベーシックプリント

TEL.048-833-3086 FAX.048-833-3128

E-mail: bphide833@yahoo.co.jp